

# 人文学研究科 日本文化専攻

---

## 博士前期課程

### 教育研究上の目的

本専攻の博士前期課程は、高度な日本語の運用能力を基盤とし、日本の言語、文学、思想、宗教、芸術文化、国語教育などに関する優れた専門知識と研究能力を身につけ、それを幅広い視野の下に位置づけて、国際的な場において、専門的職業人・教育者・研究者として活動できる人材を育成することを目的とする。

### 教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的を踏まえ、本専攻博士前期課程では、学士課程までに身につけた日本語の運用能力・教養・専門知識を基盤とし、その日本語運用能力を一層高め活用しつつ、日本の言語、文学、思想、宗教、芸術文化、国語教育の分野で優れた専門知識と研究能力と広い視野とを身につけます。

また本学附設の研究組織である人文学研究所や言語研究センター、非文字資料研究センターの諸活動と緊密に連携しつつ、今後の多文化共生社会の維持発展に寄与貢献し、高度な専門的職業人・教育者・研究者として活躍できる人材の育成を目標としています。

それとあわせこの課程では、言語教育の現場にいる人たちに再教育の場を提供することも目標として定めています。

### ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士前期課程のカリキュラムにしたがって所定の単位を取得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格した者は、以下の能力を身につけていると判断され、修士（文学）の学位が授与されます。

#### 1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

(1)日本の言語、文学、思想、宗教、芸術文化、国語教育などに関する専門的知識及びそれを幅広い視野から社会的な問題と結びつける力を身につけている。

#### 2. 国際的感性とコミュニケーション能力

(1)グローバル化に伴う社会変化に適応する柔軟性と行動力を身につけている。

(2)日本語を的確に運用しコミュニケーションを図る力を身につけている。

(3)異なる文化的背景を持つ人々と積極的に交流し、相互理解を深める力を身につけている。

#### 3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門知識と技能

(1)日本の言語、文学、思想、宗教、芸術文化、国語教育などに関する優れた専門知識と研究能力及びそれを幅広い視野の下に位置づけ、応用する力を身につけている。

(2)専門職、教育職、研究職に必要な思考力と、産業界、教育界、学界において国際的に活躍できる力を身につけている。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士前期課程は、高度な日本語の運用能力を基盤とし、日本の言語、文学、思想、宗教、芸術文化、国語教育などに関する優れた専門知識と研究能力及びそれを幅広い視野の下に位置づけて、国際的な場において、専門的職業人・教育者・研究者として活動できる人材を育成するために、以下のような教育課程を編成しています。

#### 1. 教育課程の編成・実施

(1)学士課程教育との接続に配慮しつつ、日本語の運用能力を一層高め活用しながら、日本の言語、

文学, 思想, 宗教, 芸術文化, 国語教育の分野について理論的に探究する能力, さらにはそれを幅広い視野の下に位置づけ応用する能力を身につけられるカリキュラムを提供しています。

- (2)講義科目では、「日本語学」「日本文学」「日本文化学」「日本思想」「国語教育学」という研究領域に区分してカリキュラムを編成し, 各研究領域における専門的知識や研究動向を体系的に学ぶことができるよう科目を配置しています。
- (3)修士論文指導のための演習科目を開講し, 学生は同一教員の演習を1年次から連続して履修します。この演習では, 自ら研究課題を設定し研究活動を行うための資料収集や文献読解, データ分析等の丹念な指導を提供しています。

## 2. 教育の方針と評価

- (1)講義科目では, 各学問分野の専門知識や研究方法を体系的に学ぶため, 学生自らが設定した研究課題に必要な講義科目を選択的に履修できます。学生の自律的思考と問題発見能力を尊重し, ディスカッションを通してコミュニケーション能力の向上を図るとともに, 問題解決の方策を主体的に模索, 構築していく力を培います。演習科目(「修士論文指導演習」)では, 修士論文作成へ向けた指導やプレゼンテーション能力を向上させる指導を行います。
- (2)修士論文の作成過程において, 公開形式による中間報告会を実施します。論文の進捗状況を確認し, 問題点や今後の課題などの指摘を含めた適切な指導を行います。
- (3)修士論文の審査には, 3名の教員による口頭試問を実施し, 適正な評価がなされます。
- (4)単位制度の実質化を図り, 成績評価の基準を明確化しています。

## アドミッション・ポリシー (入学者受入の方針)

### 1. 大学院教育によって培う能力

(1)本専攻が取り扱う日本の言語, 文学, 思想, 宗教, 芸術文化, 国語教育の各々の学問分野に関する専門知識と基礎的な研究能力

### 2. 本研究科の求める入学者

- (1)本専攻が取り扱う学問分野に必要な基盤となる日本語の運用能力を備えている人
- (2)本専攻が取り扱う学問分野に必要な基礎知識を有する人

### 3. 学士課程までの能力に対する評価(選抜方法)

(1)研究に必要な基盤となる日本語の運用能力と, 各々の学問分野に関する基礎的な知識の有無, 及び研究に臨むに当たっての意欲の高さを基準に選考します。

## 人文学研究科 日本文化専攻

---

### 博士後期課程

#### 教育研究上の目的

本専攻の博士後期課程は, 高度な日本語の運用能力を基盤とし, 日本の言語, 文学, 思想, 宗教, 芸術文化, 国語教育のいずれかの分野に関する高度な専門知識と研究能力を身につけ, それを幅広い視野の下に位置づけて, 国際的な場において, 専門的職業人・教育者・研究者として活動できる人材を育成することを目的とする。

#### 教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的を踏まえ, 本専攻博士後期課程では, 博士前期課程までに身につけた日本語の運用能力・教養・専門知識・研究能力を基盤とし, その日本語運用能力を一層高め活用しながら, 日本の言語, 文学, 思想, 宗教, 芸術文化, 国語教育のいずれかの分

野で高度の専門知識と研究能力とを身につけます。

また本学附設の研究組織である人文学研究所や言語研究センター、非文字資料研究センターの諸活動と緊密に連携しつつ、今後の多文化共生社会の維持発展に寄与貢献し、専門的かつ国際的な場での活動が可能な専門的職業人・教育者・研究者の育成を目標としています。

それとあわせこの課程では、言語教育の現場にいる人たちに再教育の場を提供することも目標として定めています。

## ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士後期課程のカリキュラムにしたがって所定の単位を取得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格した者は、以下の能力を身につけていると判断され、博士(文学)の学位が授与されます。

### 1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1)日本の言語、文学、思想、宗教、芸術文化、国語教育のいずれかの分野における高度な専門知識を身につけている。
- (2)グローバル化に伴う社会変化に適応する柔軟性と行動力を身につけている。

### 2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1)自律的な思考力、既存の理論や学説に対する批判的精神を身につけている。
- (2)日本語を的確に運用し、積極的にコミュニケーションを図る力を身につけている。
- (3)世界の動向を注視しつつ、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に交流し、相互理解を深める力を身につけている。

### 3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門知識と技能

- (1)日本の言語、文学、思想、宗教、芸術文化、国語教育のいずれかの分野における優れた専門知識と研究能力及びそれを幅広い視野の下に位置づける力を身につけている。
- (2)専門職、教育職、研究職に必要な思考力と、産業界、教育界、学界において国際的に活動できる力を身につけている。

## カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士後期課程は、高度な日本語の運用能力を基盤とし、日本の言語、文学、思想、宗教、芸術文化、国語教育のいずれかの分野に関する高度な専門知識と研究能力及びそれを幅広い視野の下に位置づけて、国際的な場において、専門的職業人・教育者・研究者として活動できる人材を育成するために、以下のような教育課程を編成しています。

### 1. 教育課程の編成・実施

- (1)博士前期課程教育との接続に配慮しつつ、日本語の運用能力を一層高め活用しながら、日本の言語、文学、思想、宗教、芸術文化、国語教育のいずれかの分野について理論的に探究する能力、さらにはそれを幅広い視野の下に位置づけ応用する能力を身につけられるカリキュラムを提供しています。
- (2)講義科目では、「日本語学」「日本文学」「日本文化学」「日本思想」「国語教育学」という研究領域に区分してカリキュラムを編成し、各研究領域における専門的知識や研究動向を、学生自らの研究課題に沿う形で深く学ぶことができるよう科目を配置しています。
- (3)博士論文指導のための演習科目を開講し、学生は同一教員の演習を1年次から連続して履修します。この演習では、自ら研究課題を設定し研究活動を行うための丹念な指導と、学内外の研究活動の場における研鑽が得られるような機会を積極的に提供しています。

## 2. 教育の方針と評価

- (1)講義科目では、各学問分野の高度な専門知識を体系的に学ぶため、学生自らが設定した研究課題に必要な講義科目を選択的に履修できます。学生の自律的思考と問題発見能力を尊重し、指導教員とのディスカッションを通してコミュニケーション能力の向上を図るとともに、問題解決の方策を主体的に模索、構築していく力を培います。演習科目(「博士論文指導演習」)では、実践的な研究能力を養い、博士論文作成へ向けた指導やプレゼンテーション能力を向上させる指導も行います。
- (2)博士論文の作成過程において、公開形式による中間報告会と予備審査を実施し、高度な専門知識、独創性と学際性を持った論文作成ができるよう適切な指導を行います。
- (3)博士論文の審査には、5名の教員による論文審査と公聴会を実施し、厳格な評価を行います。
- (4)単位制度の実質化を図り、成績評価の基準を明確化しています。

## アドミッション・ポリシー (入学者受入の方針)

### 1. 大学院教育によって培う能力

- (1)本専攻が取り扱う日本の言語、文学、思想、宗教、芸術文、国語教育の各々の学問分野に関する高度な専門知識と優れた研究能力

### 2. 本研究科の求める入学者

- (1)本専攻が取り扱う学問分野に必要な高度な日本語の運用能力を備えている人
- (2)本専攻が取り扱う学問分野に必要な高度な専門知識と優れた研究能力を有する人

### 3. 博士前期課程までの能力に対する評価(選抜方法)

- (1)研究に必要な高度な日本語の運用能力と、各々の学問分野に対する高度な専門知識の有無及び研究に臨むに当たっての意欲の高さを基準に選考します。